



3月

あいしま号

株式会社アイシマ

横浜市瀬谷区三ツ境 73-7

☎ 045-360-6021

http://www.aishima.co.jp/



NEWS

- # 1 グループホーム「すみれ」三上ホーム長よりご挨拶
2 「愛のくじら」2月 新規開設のお知らせ

今月はグループホームすみれ 三上ホーム長からのご挨拶です

戸塚区柏尾川沿いにある「すみれ」の管理者をさせて頂いております三上統子と申します。私ごとではございますが、昨年末に足を骨折し、人生初の手術と入院を経験する事となりました。ただ、この機会に改めて看護・介護の現場を視させていただくチャンスでもあり、実際に自分で看護・介護される側の立場を体験して色々と感じた事がありましたのでその内容を少しお話させて頂こうと思います。

■笑顔・声掛け

実際に入院してみると、中国・台湾・ベトナムの若いナースさん達が病棟の半数を占めていました。ベッド上での生活を余儀なくされた私にとって、明るい笑顔と元気で生き生きと仕事をする彼女達の姿が、とてもまぶしく映りました。

言葉は通じなくても世界共通のスマイル！

病んで気が落ち込んでいるマイナスな気持ちをプラスに導いてくれる。これを常にというのは出来そうで出来ない、簡単そうで難しい事です。

■気づきと心くばり

介護士の皆さんは50才以上の方たちが多く、歳なりの気遣いを沢山して頂き、基本の技術を持っているからこそ出来るお仕事の実感を感じました。シーツのたるみやゆるみを体勢が苦しくないようにバスタオルやフェイスタオルを使い微調整してくれました。介護技術としては基本的なことですが、そこに笑顔・声掛け・心配りが加わることで、受ける側の印象も大きく変わるものです。

■熱い思い

苦痛から少しでも助けてあげたいという思いは言葉が通じなくても伝わるものです。

実際、その思いを伝えたいあまり、外国人のナースさん達がつい母国語での議論になってしまう場面を数回見た事もありました。

でも、「見る」という事に対しての彼女達の熱意は強く感じられました。「見る・診る・視る」、そして試してみる。看護・介護の職に就いている人達の思いは皆、同じだと思います。



グループホーム「すみれ」の外観

日々の忙しさに追われがちですが、ここで一旦立ち止まり、客観的に改めて職場の見直しや、日々の仕事を振り返るチャンスを貰えたのは、怪我の功名でしょうか。健康が一番！この一言につきます。怪我をして再確認しました。

今、まさに新型コロナウイルスが問題となっておりますが、事前に対策を講じておけば回避できる可能性も高まります。これは私をはじめとする職員達の自らの体調管理やご入居者様達の事故防止にも共通して言える事だと思います。今後も職員達やご入居者様達が笑顔で過ごせるホーム作りを目指してまいります。

今回、怪我でご迷惑をおかけしましたが、協力して頂いたすべての方々にこの場でお詫ごとお礼を申し上げます。感謝！！

障がい者向けグループホーム 愛のくじらが新規開設

愛のくじらは女性専用の障がい者グループホームで、知的・精神・身体障害のある方の受け入れをしています。オープンしたてなので、慌ただしい毎日ではありますが、風通しの良い、理想のホームをつくるため、スタッフ6名で力を合わせ1から作り上げています。うち5名は新しくアイシマに入社された方々ですが、皆さん障がい者グループホームや作業所での勤務経験がある方達。とても心強いスタッフが集まりました。

利用者様もスタッフも全員女性ですので、より利用者様に寄り添ってケアすることを心掛けています。親御さん達にとっても「それは安心ですね」と喜んで頂いております。



明るい雰囲気の「愛のくじら」

障がい者グループホーム 設立の背景

支援が必要な方たちと共生していく地域を創りたい。アイシマは「福祉は共生型の総合サービス」だと考えています。高齢者・保育・障がい者・就労支援の福祉全般で地域貢献していきたいと何年も前から構想をしており、この20周年の節目によりやく実現することができました。今年の7月には関連法人NPO愛のささえが瀬谷区阿久和南に就労支援型のパン工場もオープン予定。障がい者の就労支援を進め、出来たての温かいパンを地域の皆様や各施設に届けることで、更なる地域貢献へと繋げていきます。

今回のあいしま号では、愛のくじらの川崎施設長にインタビューを行いました。

Q、一日の流れは？

利用者様は、昼間は作業所に通っている方々なので私たちは朝食作りや、身支度、送り出し～帰宅後の食事作り、洗濯やお風呂等、朝晩の生活全般をお手伝いしています。

利用者様の自立を目的としているので、安全面に配慮しながら、ご自身で出来ることはやってもらい、お手伝いが必要な場合は一緒に作業しております。夕食の時間には、今日はどんな事があったのか？を皆さんに話してもらうのが私達の楽しみでもあります。本当に家庭的な雰囲気だと感じます。



「愛のくじら」川崎施設長

Q、今後どういう施設にしていきたいですか？

女性だけの施設ですので、まずは安全面への配慮を欠かすことなく、スタッフ一同協力していきたいと思えます。

そして、何より利用者の皆様に「本当の家」だと思って、安心して暮らしてもらえるような場所にしていきたいと考えております。

利用者様の自立を支援することが私達の仕事です。女性ならではの暖かみのあるケアを継続していく中で、皆さんの日々の生活が充実していくことを目標に、利用者様と共に、なんでも気兼ねなく話し合える風通しの良い雰囲気のグループホームづくりを、これから頑張っていきたいと思えます。

Instagram facebook



アイシマの日常をSNSで発信



いいね！&フォロー
お待ちしております♪



編集部後記



コロナウイルスの影響が様々な所に拡がっております。アイシマでは、何よりもご利用者の安全を第一に引き続き出来る限りの対策を打って参りたいと思えます。よろしくお願ひ致します。